

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	静岡県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	静岡県島田市立島田第二中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	7	1	18	32
生徒数	199	195	242	1	637	

研究の概要

1. 研究主題

「『確かな学力』を持った“生きる力”のある生徒の育成」  
～教科の基礎・基本の定着と総合的な学習の時間の研究～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1年生 英語少人数指導  
生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。
- ・ 2年生 数学少人数指導(習熟度別学習)  
生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。
- ・ 2, 3年生 選択教科  
生徒の興味・関心に差が出やすいため。
- ・ 全学年 全教科  
全職員に授業改善の意識と実践を促すため。

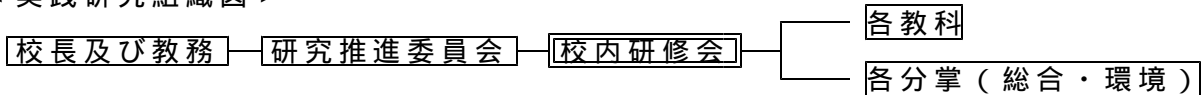
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「『確かな学力』を持った“生きる力”のある生徒の育成」 ～教科の基礎・基本の定着と総合的な学習の時間の研究～</p> <p>研究の見通し 『確かな学力』を持つために、各教科で話し合った「教科の大事にしたい学力に基づいた基礎・基本」が確実に身につくよう授業改善を進め、教科学習だけでなく総合的な学習の時間と関連させていくことによって、“生きる力”のある生徒の育成を目指す。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「きめ細やかな指導」と「学ぶ意欲」を視点とした、全教科における「基礎・基本の定着」の研究と授業実践</li> <li>② 数学と英語の少人数指導(習熟度別学習)の研究</li> <li>③ 総合的な学習の時間の研究</li> </ol> <p>○ 研究発表会の開催・・・平成15年11月13日(木)</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 「確かな学力を持った生きる力のある生徒の育成」 ～学力の定着と総合的な学習の時間の研究～</p> <p>研究の見通し 『確かな学力』を持つために、各教科で話し合った「教科の大事にしたい学力に基づいた基礎・基本」が確実に身につくよう授業改善を進めるとともに、「学ぶ意欲」に焦点を当て、その向上と定量的評価について研究する。また、平成15年度に引き続き、教科学習と総合的な学習の時間を関連させていくことによって、“生きる力”のある生徒の育成を目指す。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「学ぶ意欲」の向上と定量的評価に着目した各教科の授業改善</li> <li>② 数学の少人数指導(習熟度別学習)の研究</li> <li>③ 総合的な学習の時間の研究</li> </ol> <p>○ 公開授業日の設定・・・平成16年11月上旬</p>
--------	---

( 3 ) 研究推進体制

< 実践研究組織図 >



- ・「研究発表会(公開授業)」による地域の小・中学校との情報交換
- ・「アンケート調査」などによる地域の学力向上ハイスクールとの情報交換

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

教科では「学ぶ意欲」と「きめ細かな指導」を視点に授業改善を図り、総合的な学習の時間では、教科で養った能力を総合的に活用する場として、その効率的で的確な運営と学校の特色を生かした内容の充実に努めた。

また、本校の2年生を対象にしたアンケート調査で以下のような結果がでた。

- ・学校での授業は、「充実している」が全国平均より7%上まわり42%であった。
- また、「充実していない」は全国平均より7%下回り10%であった。
- ・教師と生徒との関係は、「充実している」が全国平均より11%も上回り42%、「充実していない」は、全国平均より6%も下まわり8%であった。

(全国平均は他調査資料による)

この結果から、本年度の研究活動によって授業改善が進み、多くの生徒に充実感が感じられるようになり、教師と生徒との関係もたいへん充実したものになってきていると考えられる。

2. 今後の課題

< 本校の2年生を対象としたアンケート調査 >

- ・家での勉強は、「充実している」が全国平均より2%下回り13%、「充実していない」は、全国平均より8%も上まわり61%であった。
- (全国平均は他調査資料による)

調査結果より、教師が授業改善を進める中で、教師と生徒の人間関係や授業内容、充実感などは向上したものの、家庭での学習習慣が定着していない状況が見られる。今後の課題の一つとして、家庭での学習習慣を如何にして生徒につけさせていくかがポイントと考えられる。

学力把握のための学校としての取り組み

校内チャレンジテストの実施

「基礎学力(読み・書き・計算)の定着」のため各学期に1回ずつ、全生徒を対象に校内チャレンジテストを実施している。実施にあたっては国語や数学の授業時間だけでなく「再テスト」や「補習」など、学校・学年体制で取り組むようにした。また目標値と達成値を設け、今後も継続して定量化して比較・分析していく予定である。

②「学習アンケート」の実施

平成15年度の2月と、平成16年度の1, 2学期に「学ぶ意欲」を中心に「学習アンケート」を実施する。その結果を定量化し、比較・分析していく。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成15年度は11/13に研究発表会(公開授業)を実施した。市内小・中学校をはじめ、県内各地から100人以上の参加者を迎え情報交換をすることができた。
- ・平成16年度にホームページを立ち上げ、研究の概要と授業案などを掲載する予定である。

島田市立島田第二中学校メールアドレス [sima2chu@across.or.jp](mailto:sima2chu@across.or.jp)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックする。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校	
【学校規模】	3学級以下	4~6学級	
	7~9学級	10~12学級	
【指導体制】	13~15学級	16学級以上	
	少人数指導	T・Tによる指導	
	その他		
【研究教科】	国語	数学	理科
	外国語	美術	技術・家庭
	保健体育	その他	
【指導方法の工夫改善にかかわる加配の有無】		有	無